

2025 年度学友会事業報告

【社会連携部（旧学友センター）】

<広 報>

1. 会報誌「Do For Others」（年 2 回）

★秋号（36 号 2025 年 9 月発行）：A 会員約 4 万人を対象に紙の冊子で発行

○読者アンケートの評価

回答者 260 名（2010 年代卒 43%、2020 年代卒 24%、2000 年代卒 18%）

回答内容（非常に良い：50%、良い：40%、普通 6%）

★春号（37 号 2026 年 3 月発行）：全会員対象にデジタルブックで発行※

※発行されたことが学友会員に伝わるよう、メールアドレスを任意で登録してもらい、

発行時に閲覧用 URL をメール配信するしくみ

○読者アンケートの評価

回答者 66 名（2010 年代卒 34%、2000 年代卒 24%、2020 年代卒 15%）

回答内容（非常に良い：58%、良い：33%、普通：7%）

○メールアドレス登録者増

2025 年 1 月現在で約 1,100 人⇒2026 年 3 月・37 号発行時に約 2,100 人に増加

<行 事>

2. 各地学友会

	島根県	北海道	宮城県	鹿児島県	愛知県
開催日	6 月 21 日	7 月 5 日	10 月 4 日	10 月 11 日	11 月 29 日
出席者数	7	26	23	14	46
参加率 (%)	7.7	3.7	4.7	9.2	5.6

※出席者数は、運営委員、ブロック長等の人数を除く

※参加率は、開催通知ハガキ発送数に対する出席者の割合

<在学生支援>

3. 卒業フォトブックおよび卒業記念品

○卒業アルバムを学生が購入しなくなったことから、学生部と校友センター（当時）が協議、卒業生・修了生全員に無料で、より簡易なフォトブックを制作している。2025 年度においても、保証人会と学友会が費用を折半し制作、卒業・修了生全員に配布した。4 ページにわたる、学友会紹介のページが設けられている。

○前項をきっかけに、現在は、これまで保証人会、校友会がそれぞれ配布していた卒業記念品を双方が予算を出し合い 1 本化している。2026 年 3 月卒業・修了者には、学友会・保証人会合同で名刺入れを配布した。

4. 卒業記念パーティーおよび謝恩会補助

○卒業記念パーティー（卒業・修了生、保証人、教員による食事を交えた懇談会）

趣旨：学友会会費納入へのお礼、学友会正会員への歓迎

会場：パレットゾーン白金 2F インナー広場

3月17日（火） 経済学部 12:30～ 社会学部 15:30～ 法学部 18:00～

3月18日（水） 心理学部 13:15～ 英文・芸術学科 15:30～

※各回の冒頭で、岡明副学長・学友会副会長および、運営委員会を代表し、

塚本運営委員長・学友会副会長、中野運営委員会副委員長から

若年層における学友会認知促進をねらいとした挨拶を行った。

○学部学科・研究科独自の謝恩会等への飲食費等補助

法と経営学研究科、国際学部・国際学研究科

※飲食費補助：1人1,500円×学友会費を納めた当該学科卒業生数を補助。

5. スポーツプロジェクト支援/文化系学生団体支援/ 応援団支援/インセンティブ

○学友会から大学のスポーツプロジェクトに対し、5,000,000円の指定寄付を行った。

○学友会から大学の要請に基づき、インセンティブと呼ばれる以下の活動費補助を行った。

陸上競技部：700,000円

サッカー部：300,000円

<学友会A会員限定サービス>

6. 明治学院プラチナカレッジ受講サービス(年間1シリーズ無料)

2025年度実績：73名 262,800円

7. 図書館登録料補助

2025年度実績 166名 365,200円)

<学友会発足関連>

8. 学友会会員証制作・送付

・2024年9月発行の校友会会報誌（A会員限定発行）で、既存の校友会A会員証は

「引き続き同じものをお使いいただける」とアナウンスしている。

※A会員を対象に一律の学友会会員証発行は、数百万レベルの支出が見込まれるため、

2025年度事業計画に基づき、行わなかった。

・2025年3月卒業・修了者より、新たな学友会A会員には「学友会会員証」を交付した。

・2025年3月以降、会員証再交付の申請をした既存の学友会A会員には「学友会会員証」を交付した。

【運営委員会】

<企画広報グループ>

■ 主な活動内容

① 「ホームカミング Day2025」開催に向けての取り組み（10/25 開催）

学友会発足後、初となる「ホームカミング Day2025」の開催に向け、学友センターとの連携を図りながら、卒 50 年記念メダル贈呈式、茶話会、懇親会の企画、準備に取り組んだ。また開催当日は、主催者側として、運営・進行に携わった。

② 学友会運営委員会ホームページの運営

ホームページに掲載する各支部からの「支部総会・イベント情報」のデータの取りまとめ、及びホームページ保守・更新代行業者へのデータ送付、記事掲載依頼等、ホームページの運営に取り組んだ。

③ 「Do for Others (No. 37/2026 春夏号)」の掲載記事の提供

運営委員会に割り当てられているページに「ホームカミング Day2025」の記事と、明学ストリートに登録されている 7 社の紹介記事を掲載する為、それぞれ原稿記事を学友センターへ提出。また「News 学院の窓」については、残りのページに「明学でいい友」の記事を寄稿。

■ 「ホームカミング Day2025」の総括

企画広報グループとしては、毎月の会議において、開催に向けて活発な議論を交わし、情報共有を図る中で、早い段階からメンバーのベクトルもホームカミングに向け標準化され、余裕を持って準備に取り組めた点、また当日も、学生支援グループ並びに支部支援グループからの協力もあり、運営委員会として総力戦で各プログラムの運営に当たることができ、全てのスケジュールが滞りなく、無事進行することができた点、更に懇親会では、ステージイベントや明学ストリートコーナーでの出店等、学生団体並びに卒業生の方々から多大なるご支援、ご協力を頂き、会の方も盛況のうちに終えることができた点など、良かった点が多々あったかと思料します。一方で改善点、反省点もあった為、それらについては、来年度に生かしていきたいと思えます。

■ 2026 年度の行事計画

昨年に続き、今秋 10 月 24 日に「ホームカミング Day2026」を開催予定です。

<学生支援グループ>

1 グループ会議 毎月第一火曜日 全 12 回開催

2 白金祭 11 月 1 日～3 日 白金キャンパス

パレットゾーン 1 階にて「ライブ&カフェ」を出店しました。

お天気、曜日にも恵まれ過去最高の売上でした。

売上金は全てボランティアセンターへ寄付させて頂きました。

3 キャリア応援イベント 交流会

12 月 7 日（日）白金キャンパスにて開催し今尾学長に両行事出席頂きました。

「キャリア応援イベント」10 階大会議室

基調講演に続き直近卒業された同窓生 2 名 学生（内定決定）1 名とトークセッション
就職活動の支援をさせて頂きました。

学生 18 名 同窓生 4 名 計 22 名出席

「交流会」パレットゾーン 2 階インナー広場

学生と同窓生との親睦交流を図り OB バンド 体育会 応援団のパフォーマンスを
披露して頂きました。

学生 82 名 同窓生 40 名 計 142 名出席

4 2026 年行事計画

① グループ会議 毎月第一火曜日 全 12 回 白金キャンパス会議室

② 行事計画 白金祭 11 月 1 日～3 日 白金キャンパス

③ キャリア応援イベント 交流会 12 月 6 日（日） 白金キャンパス

5 25 年総括

「白金祭」

長年の成果は表れております。

今後も「ライブ&カフェ」の内容を充実させ同窓生 学生に学祭を楽しんで頂ける様
努めます。

「キャリア応援イベント」 「交流会」

参加者を学生 4 団体に頼りすぎず我々の母体である各クラブ 職域 OB 会に積極的に
働きかける必要があると感じました。

「グループ委員」

諸事情により退任された委員が多く 2027 年度に向けてグループ委員一同委員確保
に一層の努力が必要と思います。

以 上

<支部支援グループ>

2025 年度は、学友会と校友会の統合後の「移行期間」にあたり、支部活動の制度・運営・個人情報管理など、多くの課題が顕在化した。支部支援グループは、各支部・ブロック会への派遣や情報収集を通じて、支部運営の実態把握と課題整理を進め、支部活動の継続的な活性化に向けた基盤整備に取り組んだ。また、学友センターとの協議を通じた制度改善にも着手した。

1. 協議・審議事項

1-1. 個人情報管理の統一化

支部ごとに管理体制の差が大きく、支部長の責任の明確化が必要
→個人情報管理ガイドラインの整備と統一運用

1-2. 支部補助費制度の運用と見直し

補助費請求においては、書類不備や要件不適合など運用上の課題が散見される。補助対象を総会以外の行事などに拡大する案も議論された。
→補助費制度の合理化と柔軟な運用、活動実態を考慮した予算配分

1-3. 支部総会・行事開催状況と運営課題

支部総会の開催状況には地域差が大きく、地方では高齢化や交通事情により隔年開催が増えている。会計報告・事業報告が不十分な支部もあり、運営の均質化が必要とされた。一方、若手参加が増加している支部では、軽食中心の総会やLINE 活用など、参加しやすい工夫が成果を上げている。

1-4. 若手参加促進と支部活性化

いくつかの県では若手・女性中心の自主的な交流が活発化しており、LINE や Google フォームを活用した案内・出欠管理が成功例として共有された。
停滞支部では役員高齢化・後継者不足が深刻であり、広報力の強化や成功事例の横展開が求められる。

2. 主な派遣内容

甲信越ブロック会（8/24）：再始動と活性化に向けた基盤整備

東京ブロック会（10/18）：個人情報管理が主要議題

北陸ブロック会（11/8）：女性の活動が活発、女性役員増加

北関東ブロック会（11/8）：旅費精算の扱いが課題

山梨県支部総会（11/8）：軽食中心の新しい開催形態が好評

東海ブロック会（11/29）：若手・女性参加が増加、LINE 活用が進む支部あり

福島県支部（11/29）：昨年度再始動。広報力強化が課題

近畿ブロック会・兵庫県支部総会（1/10）：困難ではあったが支部長交代。アットホームな総会。

運営委員会の活動方針とに齟齬が生じ現在苦慮している、

神奈川ブロック会（1/17）：これまで各ブロック、各支部から出た質問内容と同様の質問が出たが、既存の資料を基に回答。学友会の将来像を含め、活発な意見が出た。

東北ブロック会（2/23）：新ブロック長選任

3. 来年度の会議日程

原則、8月を除く毎月第2木曜日（全11回）

以上

＜運営委員会＞

運営委員会として、支部支援グループ・企画広報グループ・学生支援グループの各グループ長、副グループ長と毎月の会議において活動状況を共有し、各グループ同志の協力体制をとり、運営委員会活動を推し進めてきました。

学友会主催「卒業記念パーティ」において、新学友会員へ全国支部活動のアピールができました。次年度は更に「学友会へようこそ」というテーマで、学友会へ卒業生を迎えていきます。

1、企画広報グループ

- 発足後、初となる「ホームカミング Day2025」（10月25日開催）の企画運営。
参加者アンケートは満足度100%でした。
- 学友会運営委員会ホームページの運営
- 「Do for Others」掲載記事提供、「News 学院の窓」の編集発行

2、学生支援グループ

- 白金祭ライブ&カフェ、キャリア応援イベント、現役学生・卒業生交流会
「白金祭ライブ&カフェ」、「キャリア応援イベント・交流会」など、学生団体、卒業生団体との連携・協力体制により、ボランティアセンターへの寄付をはじめ、母校への支援活動が展開できました。

3、支部支援グループ

2025年度は、学友会と校友会の統合後の「移行期間」にあたり、支部活動の制度・運営・個人情報管理など、多くの課題が顕在化した。支部支援グループは、各支部・ブロック会への派遣や情報収集を通じて、支部運営の実態把握と課題整理を進め、支部活動の継続的な活性化に向けた基盤整備に取り組んだ。また、学友センターとの協議を通じた制度改善にも着手した。

- 個人情報管理の統一化
- 支部補助費制度の運用と見直し
- 支部総会・行事開催状況と運営課題
- 若手参加促進と支部活性化

明治学院大学学友会運営委員会